

平成 28 年 3 月 13 日

佛教大学総合研究所共同研究「現代社会における宗教の力」プロジェクト
公開シンポジウム「震災後と宗教～東日本大震災後の支援や追悼に果たす宗教の役割～」

京都での避難者支援活動

神主さんと京の社を巡ろうの会

代表 金田 伊代

1. 避難者の概要

平成 28 年 3 月 11 日で、東日本大震災発生から 5 年を迎えました。この震災の影響で避難している方は全国に約 17 万 4 千人、京都府には約 700 人¹いるとされています。

中には、お父さんを地元に残して母子避難をしており、今後の生活の見通しがつかない状況で、地元に戻るか、移住するかの決断ができずに、故郷に残った家族や友人の健康への不安、将来の生活の不安などを抱えながら、故郷や家族から離れて慣れない土地で暮らしている方も多くいます。

2. 本会の活動目的と内容

「神主さんと京の社を巡ろうの会」では、このように京都へ避難している方々を対象に、京都府庁の文教課と京都府災害支援対策本部を通じ、京都の社寺を通じた支援活動を行っています。

避難者は様々で、ニーズも多様ですが、避難生活が長期化するにつれ、心のケアの重要性が問われています。内閣に組織された復興庁でも被災者に対する健康・生活支援が重要な課題となっており、コミュニティ形成や心のケア、生きがいつくり等がその重点施策として位置付けられています²。

避難者には今までの生活を変えざるを得なかったことに対する「嘆き」や「悲しみ」、「将来への不安」を抱いている方が多いと聞きます。そのような方に寄り添い、神社やお寺を通して、日常と離れた空間で心の休まる時間を持ってもらえたら、ま

¹復興庁「全国の避難者等の数」（平成 28 年 2 月 26 日）

(http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat2/sub-cat2-1/20160226_hinansha.pdf)

²復興庁「被災者支援（健康・生活支援）総合対策」平成 27 年 1 月 23 日策定

(http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat2/20150123_sougoutaisaku.pdf)

た、長い歴史を有する京都や日本の伝統に触れることでその良さを見直し、社寺での祈りによって、少しでも希望を持って日々を過ごしていくことができるような支援を目的として活動しています。

さらに、本会は京都府災害支援対策本部が事務局となっている「京都府避難者支援プラットフォーム」に支援団体として参加し、避難者支援の取り組みや課題について意見交換や情報共有、行事の参加、助成を通して他支援者との交流、協力も行っています。

また、広報活動を通して、多くの避難者が京都にもいるということ、宗教者の社会貢献を知ってもらうことは震災の風化防止と宗教界の社会における役割を示す大切な活動のひとつであると考えています。

3. 今後の課題

時間が経つにつれ、避難者を取り巻く状況は刻々と変化してきています。避難生活の長期化により、家庭や学校、地域生活の新たな問題が浮き彫りになり、悩みがより深刻化している方もいると聞きます。また、避難者へ無償で貸与されている住宅は入居期限が迫り、多くの方は今後の生活の変化や選択に直面しています。一方、行政の支援は予算によっては今後縮小傾向になることが予想されています。

このような状況の変化に応じて、本会でも状況に見合った支援活動を継続して行うために、ネットワークづくりや支援活動の方向性や内容、方法についての再検討が必要となってきています。